

## 最近話題となっている病害虫

長野県病害虫防除所 嵯峨 裕之

### レタス黒根病

学名：*Thielaviopsis basicola* (Berkeley & Broome) Ferraris  
英名：black root rot of Lettuce

レタス黒根病の病原菌である *Thielaviopsis basicola* は糸状菌（不完全菌類）で、土壌伝染する。

本菌による病害は、国内ではこれまでに、タバコ、ミツバ、スイートピー、パンジー、ゼラニウム、オクラ、インゲンマメなどで報告されている。

本病は、国内では群馬県で初めて確認され、2018年5月に特殊報が出された。その後、現時点（2019年6月）までに、静岡県、長野県及び茨城県から特殊報が出されている。

海外ではアメリカ、オーストラリア、ヨーロッパ等で発生の報告がある。

### ■病徴・診断

地上部では外葉の黄化、生育遅延などが認められ、症状が進行すると結球葉が萎凋し、小玉化する。状況によっては病徴が認められない場合もある。

軽症株では根の一部が帯状にわずかに褐変、隆起し、表面に亀裂が生じる。中～重症株では帯状の褐変が明瞭になり（図1）、根全体が黒変する。根部の症状は表面に限られる場合が多く、主根内部に褐変が観察されることはまれである。根腐病等の土壌病害を併発し、重症化することがある。



図1 根部に生じた帯状の褐変（中～重症株）

病原菌は、り病部に分生子や厚膜胞子（図2）を形成し、り病残渣とともに土壌中に残留し伝染源となる。なお、厚膜胞子は土壌中に長期間生存が可能である。



図2 厚膜胞子

本病に対しては、品種間で病性に差異があることが示唆されている。

分離菌を接種した場合には、キャベツ、ハクサイ、ブロッコリーへの病原性は認められなかった。

### ■防除対策

現在、本病に対する登録農薬はなく、以下の対策が効果的である。

- ① 連作により土壌中の病原菌の密度が高まるため、発生ほ場では連作を避ける。
- ② 本病の発生が確認されたほ場での作業終了時には、トラクター等の農機具類、長靴など土壌が付着している可能性のあるものについては、丁寧に洗浄して、他のほ場に拡散しないようにする。
- ③ 明渠（側溝）を設置するなどして雨による土壌の流出を防止する。

### 参考文献

- Garibaldi, A. et al. (2005) First Report of Root Rot Incited by *Thielaviopsis basicola* on Lamb's Lettuce (*Valerianella oleritoria*) in Europe. *Plant Disease*. 89: 205.
- Koike, S. T. (2008) Black Root Rot Caused by *Thielaviopsis basicola* on Lettuce in California. *Plant Disease*. 92: 1368.
- 三木ら (2018) 群馬県内レタス圃場におけるレタス黒根病(新称)の発生とその品種間差. 日植病報 84: 207. (講要)
- 中根ら (2018) *Thielaviopsis basicola* によるレタス黒根病(新称). 日植病報 84: 207. (講要)
- 中根ら (2019) 国内各地で分離されたレタス黒根病菌の同定および品種を用いた防除法の検討. 平成31年度日本植物病理学会本大会講演要旨: 81.
- O'Brien, R. G. et al. (1994) Lettuce black root rot – a disease caused by *Chalara elegans*. *Australasian Plant Pathology*. 23: 106-111.